Ⅰ　学校調査・学校通信教育調査

１　幼稚園

[Ⅰ-1-1表] 　　主要指標の推移



（１）園　数

・　504園で、前年度より16園減少している。

・　設置者別では、国立1園(構成比0.2％)、公立179園(同35.5％)、私立324園(同64.3％)で、前年度より公立は12園、私立は4園、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市166園、堺市42園、吹田市29園の順に多い。

[Ⅰ-1-1表・統計表1・付表-5]

（２）学級数

・　2,827学級で、前年度より150学級減少している。

・　設置者別では、国立6学級(構成比0.2％)、公立458学級(同16.2％)、私立2,363学級(同83.6％)で、前年度より公立は15学級、私立は135学級、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市839学級、堺市276学級、吹田市206学級の順に多い。

・　１園当たりの学級数は5.6学級で、前年度より0.1学級減少している。

[Ⅰ-1-1表・統計表1]

（３）在園者数

・　57,303人（男子28,739人、女子28,564人）で、前年度より5,485人減少している。

・　設置者別では、国立133人(構成比0.2％)、公立7881人(同13.8％)、私立49,289人(同86.0％)で、前年度より国立は11人、公立は654人、私立は4,820人、それぞれ減少している。

・　年齢別では、3歳児16,856人(構成比29.4％)、4歳児19,310人(同33.7％)、5歳児21,137人(同36.9％）で、前年度より3歳児は1,593人、4歳児は1,794人、5歳児は2,098人、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市17,012人、堺市5,472人、吹田市4,781人の順に多い。

・　１学級当たりの在園者数は20.3人で、前年度より0.8人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの在園者数は9.6人で、前年度より0.8人減少している。

[Ⅰ-1-1表・Ⅰ-1-2表・統計表2・付表-5]

 [Ⅰ-1-2表] 　　入園年齢別在園者数



（４）入園者数

・　16,040人（男子8,173人、女子7,867人）で、前年度より1,851人減少している。

・　設置者別では、国立50人(構成比0.3％)、公立3,109人(同19.4％)、私立12,881人(同80.3％)で、前年度より国立は4人、公立は302人、私立は1,545人、それぞれ減少している。

・　年齢別では、3歳児13,241人(構成比82.5％)、4歳児2,064人(同12.9％)、5歳児735人(同4.6％）で、前年度より3歳児は1,943人、4歳児は33人、それぞれ減少、5歳児は125人増加している。

[Ⅰ-1-2表・Ⅰ-1-3表]

[Ⅰ-1-3表] 　　設置者別・男女別入園者数



 　[Ⅰ-1-1図]　年齢別入園者数の推移 [Ⅰ-1-2図]　公立・私立別入園者数の推移

****

（５）認可定員及び定員充足率

・　認可定員は113,582人で、前年度より3,096人減少している。

また、設置者別では、国立150人(構成比0.1％)、公立21,216人(同18.7％)、私立92,216人(同81.2％)で、前年度より公立は1,575人、私立は1,521人、それぞれ減少している。

・　定員充足率は50.5％で、前年度より3.3ポイント低下している。

また、設置者別では、国立88.7％、公立37.1％、私立53.4％で、前年度より国立は7.3ポイント、公立は0.3ポイント、私立は4.3ポイント、それぞれ低下している。

[Ⅰ-1-4表・Ⅰ-1-3図]

[Ⅰ-1-4表] 　　認可定員、在園者数及び定員充足率



[Ⅰ-1-3図] 公立・私立別定員充足率の推移



（６）教員数（本務者）

・　5,981人（男性267人、女性5,714人）で、前年度より36人減少している。

・　設置者別では、国立10人（構成比0.2％)、公立1,110人（同18.6％)、私立4,861人

（同81.3％)で、前年度より国立は1人増加、公立は21人、私立は16人、それぞれ減少している。

[Ⅰ-1-1表・統計表3]

２　幼保連携型認定こども園

[Ⅰ-2-1表] 　　主要指標の推移



（１）園　数

・　732園で、前年度より28園増加している。

・　設置者別では、公立95園(構成比13.0％)、私立637園(同87.0％)で、前年度より公立は3園、私立は25園、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市135園、大阪市69園、豊中市・東大阪市49園の順である。

[Ⅰ-2-1表･統計表7・付表-5]

（２）学級数（3から5歳児）

・　3,055学級で、前年度より43学級増加している。

・　設置者別では、公立437学級(構成比14.3％)、私立2,618学級(同85.7％)で、前年度より公立は9学級、私立は34学級、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市474学級、大阪市320学級、東大阪市253学級の順に多い。

・　1園当たりの学級数は4.2学級で、前年度より0.1学級減少している。

[Ⅰ-2-1表・統計表7]

（３）在園者数

・　99,961人（男子50,899人、女子49,062人）で、前年度より2,790人増加している。

・　設置者別では、公立13,097人(構成比13.1％)、私立86,864人(同86.9％)で、前年度より公立は244人、私立は2,546人、それぞれ増加している。

・　年齢別では、0歳児4,590人（構成比4.6％）、1歳児12,327人（同12.3％）、2歳児14,435人（同14.4％）、3歳児22,599人(同22.6％)、4歳児22,983人(同23.0％)、5歳児23,027人(同23.0％）で、前年度より0歳児は48人、1歳児494人、2歳児612人、3歳児216人、4歳児598人、5歳児822人、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市16,673人、大阪市9,709人、東大阪市7,673人の順に多い。

・　3から5歳児の１学級当たりの在園者数は22.5人で、前年度より0.3人増加している。

・　教育・保育職員(本務者)１人当たりの在園者数は5.9人で、前年度と同じである。

[Ⅰ-2-2表] 　　　　入園年齢別在園者数



（４）入園者数（3から5歳児）

・　10,729人（男子5,505人、女子5,224人）で、前年度より335人減少している。

・　設置者別では、公立1,985人(構成比18.5％)、私立8,744人(同81.5％)で、前年度より公立は89人、私立は246人、それぞれ減少している。

・　年齢別では、3歳児7,829人(構成比73.0％)、4歳児1,797人(同16.7％)、5歳児1,103人(同10.3％）で、前年度より3歳児は294人、4歳児は17人、5歳児は24人、それぞれ減少している。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-2-2表・Ⅰ-2-3表]

[Ⅰ-2-3表] 　　設置者別・男女別入園者数



 [Ⅰ-2-1図] 年齢別在園者数　　　　　 　[Ⅰ-2-2図] 公立・私立別在園者数の推移

　　　　　

（５）認可定員及び定員充足率

・ 認可定員は115,026人で、前年度より4,108人増加している。

また、設置者別では、公立16,109人(構成比14.0％)、私立98,917人(同86.0％)で、前年度より公立は403人、私立は3,705人、それぞれ増加している。

・　定員充足率は86.9％で、前年度より0.7ポイント低下している。

 　また、設置者別では、公立81.3％、私立87.8％で、前年度より公立は0.5ポイント、私立は0.8ポイント、それぞれ低下している。

[Ⅰ-2-4表･Ⅰ-2-3図]

[Ⅰ-2-4表] 　　認可定員、在園者数及び定員充足率



[Ⅰ-2-3図]　公立・私立別定員充足率の推移



（６）教育・保育職員数（本務者）

・　17,085人（男性786人、女性16,299人）で、前年度より642人増加している。

・　設置者別では、公立2,095人（構成比12.3％)、私立14,990人（同87.7％)で、前年度より公立は107人、私立は535人、それぞれ増加している。

[Ⅰ-2-1表・統計表9]

３　小学校

[Ⅰ-3-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　981校で、前年度より2校減少している。

・　設置者別では、国立3校(構成比0.3％)、公立961校(同98.0％)、私立17校(同1.7％)で、前年度より公立は2校減少している。

・　市町村別では、大阪市296校、堺市94校、東大阪市49校の順に多く、能勢町0校、田尻町1校、忠岡町・太子町・河南町・千早赤阪村2校の順に少ない。

[Ⅰ-3-1表・統計表13・付表-5]

（２）学級数

・　18,922学級で、前年度より222学級減少している。

・　設置者別では、国立54学級(構成比0.3％)、公立18,631学級(同98.5％)、私立237学級(同1.3％)で、前年度より公立は222学級減少している。

・　学級編制方式別では、単式学級13,592学級(構成比71.8％)、複式学級17学級(同0.1％)、特別支援学級5,313学級(同28.1％)で、前年度より単式学級は40学級減少、複式学級は7学級増加、特別支援学級は189学級減少している。

・　市町村別では、大阪市5,416学級、堺市1,813学級、豊中市964学級の順に多く、能勢町0学級、千早赤阪村16学級、田尻町19学級の順に少ない。

また、前年度より守口市7学級、大東市6学級、吹田市・交野市4学級の順に増加し、大阪市63学級、東大阪市28学級、和泉市22学級の順に減少している。

[Ⅰ-3-1表・Ⅰ-3-2表・統計表13・付表-5]

[Ⅰ-3-2表] 　 学級編制方式別学級数及び児童数



（３）児童数

・　404,004人（男子206,275人、女子197,729人）で、前年度より6,463人減少している。

・　設置者別では、国立1,850人(構成比0.5％)、公立395,702人(同97.9％)、私立6,452人(同1.6％)で、前年度より国立は4人、公立は6,370人、私立は89人、それぞれ減少している。

・　学級編制方式別では、単式学級373,031人(構成比92.3％)、複式学級138人(同0.0％)、特別支援学級30,835人(同7.6％)で、前年度より単式学級は6,214人減少、複式学級は49人増加、特別支援学級は298人減少している。

・　市町村別では、大阪市115,681人、堺市39,841人、豊中市21,491人の順に多く、能勢町0人、千早赤阪村150人、田尻町435人の順に少ない。

 また、前年度より交野市63人、大阪狭山市47人、守口市37人の順に増加し、堺市1,043人、大阪市839人、東大阪市521人の順に減少している。

・　１学級当たりの児童数は21.4人で、前年度と同じである。

　また、市町村別では、大阪狭山市24.3人、茨木市23.3人、和泉市・田尻町22.9人の順に多い。

・　教員(本務者)１人当たりの児童数は13.8人で、前年度より0.2人減少している。

[Ⅰ-3-1表・Ⅰ-3-2表・Ⅰ-3-3表・統計表14・付表-5]

 [Ⅰ-3-3表] 設置者別・男女別児童数



[Ⅰ-3-4表] 　　　学年別児童数



（４）帰国児童数及び外国人児童数

・　帰国児童数は320人で、前年度間より148人減少している。

・　外国人児童数は6,594人で、前年度より344人増加している。

[Ⅰ-3-5表・Ⅰ-3-6表]

[Ⅰ-3-5表] 　 帰国児童数 　 [Ⅰ-3-6表]　　外国人児童数

　 

（５）教員数（本務者）

・　29,382人（男性11,287人、女性18,095人）で、前年度より102人増加している。

・　設置者別では、国立75人(構成比0.3％)、公立28,827人(同98.1％)、私立480人(同1.6％)で、前年度より国立は1人、公立は89人、私立は12人、それぞれ増加している。

[Ⅰ-3-1表・統計表16]

４　中学校

[Ⅰ-4-1表] 　　　主要指標の推移



 (注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の「学級数」「生徒数」「担当教員数」は含めていない。

（１）学校数

・　513校で、前年度と同じである。

・　設置者別では、国立3校(構成比0.6％)、公立451校(同87.9％)、私立59校(同11.5％)で、前年度より公立は1校増加、私立は１校減少している。

・　市町村別では、大阪市157校、堺市47校、東大阪市25校の順に多く、能勢町0校、忠岡町・田尻町・岬町・太子町・河南町・千早赤阪村1校、豊能町2校の順に少ない。

[Ⅰ-4-1表・統計表22・付表-5]

（２）学級数

・　8,062学級で、前年度より139学級減少している。

・　設置者別では、国立33学級(構成比0.4％)、公立7,373学級(同91.5％)、私立656学級(同8.1％)で、前年度より公立は145学級減少、私立は6学級増加している。

・　学級編制方式別では、単式学級6,028学級(構成比74.8％)、複式学級1学級(同0.0％)、特別支援学級2,033学級(同25.2％)で、前年度より単式学級は33学級、特別支援学級は106学級、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市2,303学級、堺市795学級、東大阪市419学級の順に多く、能勢町0学級、千早赤阪村5学級、岬町・太子町11学級の順に少ない。

また、前年度より堺市4学級、池田市・泉佐野市2学級、豊中市・茨木市・松原市・藤井寺市・交野市・豊能町1学級の順に増加し、大阪市41学級、寝屋川市12学級、八尾市・富田林市・箕面市11学級の順に減少している。

[Ⅰ-4-1表・Ⅰ-4-2表・統計表22・付表-5]

[Ⅰ-4-2表]　 学級編制方式別学級数及び生徒数



（３）生徒数

・　214,779人（男子109,284人、女子105,495人）で、前年度より2,434人減少している。

・　設置者別では、国立1,183人(構成比0.6％)、公立191,952人(同89.4％)、私立21,644人(同10.1％)で、前年度より国立は6人、公立は2,483人、それぞれ減少、私立は55人増加している。

・　学級編制方式別では、単式学級203,453人(構成比94.7％)、複式学級8人（同0.0％）、特別支援学級11,318人(同5.3％）で、前年度より単式学級は2,240人、特別支援学級は194人、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市61,391人、堺市21,113人、吹田市10,553人の順に多く、能勢町0人、千早赤阪村96人、田尻町227人の順に少ない。

また、前年度より吹田市96人、箕面市85人、大阪市57人の順に増加し、堺市394人、枚方市259人、高槻市207人の順に減少している。

・　１学級当たりの生徒数は26.6人で、前年度より0.1人増加している。

また、市町村別では、高石市32.5人、交野市30.6人、大阪狭山市29.9人の順に多い。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は12.5人で、前年度より0.1人減少している。

[Ⅰ-4-1表・Ⅰ-4-2表・Ⅰ-4-3表・統計表23・付表-5]

 [Ⅰ-4-3表]　 　 　 設置者別・男女別生徒数



[Ⅰ-4-4表] 学年別生徒数



（４）帰国生徒数及び外国人生徒数

・　帰国生徒数は174人で、前年度間より9人増加している。

・　外国人生徒数は2,419人で、前年度より169人増加している。

[Ⅰ-4-5表・Ⅰ-4-6表]

[Ⅰ-4-5表]　 帰国生徒数 　　　　　　　　[Ⅰ-4-6表]　外国人生徒数

 　　　

　　　　　　　　　 　　　　　　　(注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の「生徒数」は

含めていない。

（５）教員数（本務者）

・　17,191人（男性9,276人、女性7,915人）で、前年度より28人減少している。

・　設置者別では、国立61人(構成比0.4％)、公立15,740人(同91.6％)、私立1,390人(同8.1％)で、前年度より国立は2人、公立は46人、それぞれ減少、私立は20人増加している。

[Ⅰ-4-1表・統計表25]

（６）夜間その他特別な時間において授業を行っている学校

学級数は40学級で前年度より1学級増加、生徒数は719人で前年度より103人増加している。

[Ⅰ-4-7表]

[Ⅰ-4-7表] 夜間その他特別な時間において授業を行っている

学校数、学級数、生徒数及び教員数（本務者）(公立)



５　義務教育学校

 [Ⅰ-5-1表] 　　　主要指標の推移



(注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の「生徒数」「担当教員数」は含めていない。

（１）学校数

　　11校で、前年度より1校増加している。　　　　　　　　　　　　　　　 [Ⅰ-5-1表・統計表31]

（２）児童生徒数

・　7,096人（男子3,617人、女子3,479人）で、前年度より418人増加している。

・　教員（本務者）１人当たりの児童生徒数は10.6人で、前年度より0.2人減少している。

[Ⅰ-5-1表・Ⅰ-5-2表・統計表32]

 [Ⅰ-5-2表]　　　　　　　　　課程別・学年別児童生徒数



（３）教員数（本務者）

669人（男性305人、女性364人）で、前年度より50人増加している。

[Ⅰ-5-1表・統計表34]

（４）夜間その他特別な時間において授業を行っている学校

　　生徒数は123人で、前年度より4人減少している。　　　　　　　　　　　　　　　 　[Ⅰ-5-3表]

[Ⅰ-5-3表]　夜間その他特別な時間において授業を行っている

学校数、学級数、生徒数及び教員数（本務者）(公立)



６　高等学校（全日制・定時制）

[Ⅰ-6-1表] 　　　　主要指標の推移



（１）学校数

・　249校で、前年度より5校減少している。

・　設置者別では、国立1校(構成比0.4％）、公立154校(同61.8％）、私立94校(同37.8％）で、前年度より公立は3校、私立は2校、それぞれ減少している。

・　課程別では、全日制課程のみを置く学校が226校、定時制の課程のみを置く学校が5校、全日制・定時制の課程を併置する学校が18校である。

・　市町村別では、大阪市86校、堺市24校、東大阪市14校の順に多い。

[Ⅰ-6-1表・統計表36・付表-5]

（２）学科数

・　313学科で、前年度より6学科減少している。

・　課程別では、全日制課程287学科、定時制課程26学科で、全日制課程は6学科減少している。

・　学科分野別では、普通科188学科、専門教育を行う学科として農業科2学科、工業科22学科、商業科12学科、家庭科3学科、看護科3学科、福祉科2学科、その他の学科45学科、総合学科36学科である。　　　　　　　　　　　　　 　 [Ⅰ-6-2表]

[Ⅰ-6-2表] 　　　　課程別学科数



（３）生徒数

・　197,660人（男子99,272人、女子98,388人）で、前年度より1,281人減少している。

・　設置者別では、国立1,283人(構成比0.6％）、公立106,176人(同53.7％）、私立90,201（45.6％）で、前年度より国立は10人、公立は12人、それぞれ増加、私立は1303人減少している。

・　課程別では、全日制課程195,177人(構成比98.7％)、定時制課程2,483人(同1.3％)で、前年度より全日制課程は1,333人減少、定時制課程は52人増加している。

・　学科分野別では、普通科147,862人(構成比74.8％)、その他19,836人(同10.0％)、総合学科15,120人(同7.6％)、工業科8,417人（同4.3％)、商業科3,881人 (同2.0％）の順に多い。

・　市町村別では、大阪市69,301人、堺市16,975人、東大阪市10,769人の順に多い。

また、前年度より吹田市324人、大阪市214人、岸和田市58人の順に増加し、茨木市419人、堺市290人、守口市227人の順に減少している。

・　１校当たりの生徒数は793.8人で、前年度より10.6人増加している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は14.2人で、前年度より0.1人減少している。

[Ⅰ-6-1表・Ⅰ-6-3表・Ⅰ-6-4表・統計表38・付表-5]

[Ⅰ-6-3表] 　　設置者別生徒数



[Ⅰ-6-4表] 　　　学科別生徒数



[Ⅰ-6-5表] 　　課程別・学年別生徒数



 [Ⅰ-6-1図]　 学科別生徒数



[Ⅰ-6-2図] 学科別生徒数の推移



（４）帰国生徒数及び外国人生徒数

・　帰国生徒数は116人で、前年度間より26人減少している。

・　外国人生徒数は1,503人で、前年度より260人増加している。

[Ⅰ-6-6表・Ⅰ-6-7表]

[Ⅰ-6-6表]　　帰国生徒数 　　 　[Ⅰ-6-7表] 外国人生徒数

　　

（５）入学状況

・　入学定員は73,837人で、前年度より2,133人減少している。

また、設置者別では、国立440人（構成比0.6％）、公立39,360人（同53.3％）、私立34,037人（同46.1％）で、前年度より公立は222人、私立は1,911人、それぞれ減少している。

・　入学志願者は110,611人で、前年度より964人減少している。

また、設置者別では、国立462人（構成比0.4％）、公立40,540人（同36.7％）、私立69,609人（同62.9％）で、前年度より国立は16人、公立は2,635人、それぞれ減少、私立は1,687人増加している。

・　入学者は67,056人で、前年度より81人減少している。

また、設置者別では、国立432人（構成比0.6％）、公立36,756人（同54.8％）、私立29,868人（同44.5％）で、前年度より国立は5人増加、公立は33人、私立は53人、それぞれ減少している。

[Ⅰ-6-8表・統計表41]

 [Ⅰ-6-8表] 入学状況

（６）教員数（本務者）

・　13,897人（男性9,084人、女性4,813人）で、前年度より33人増加している。

・　設置者別では、国立84人(構成比0.6％)、公立8,468人(同60.9％)、私立5,345人(同38.5％)で、国立は2人、公立は43人、それぞれ増加、私立は12人減少している。

・　課程別では、全日制課程13,370人(構成比96.2％）、定時制課程527人(同3.8％）で、前年度より全日制課程は36人増加、定時制課程は3人減少している。

[Ⅰ-6-1表・統計表42]

７　高等学校（通信制）

[Ⅰ-7-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　14校で、前年度と同じである。

・　設置者別では、公立1校(構成比7.1％)、私立13校(同92.9％)である。

・　独立校（通信制課程のみの学校)は、私立12校である。

[Ⅰ-7-1表]

（２）生徒数

・　19,038人（男子9,069人、女子9,969人）で、前年度より564人増加している。

・　設置者別では、公立2,026人(構成比10.6％)、私立17,012人(同89.4％)で、前年度より公立は89人、私立は475人、それぞれ増加している。

[Ⅰ-7-1表・統計表49]

（３）教員数（本務者）

・　376人（男性214人、女性162人）で、前年度より19人増加している。

・　設置者別では、公立48人(構成比12.8％)、私立328人(同87.2％)で、前年度より公立は2人、私立は17人、それぞれ増加している。

[Ⅰ-7-1表]

８　中等教育学校

[Ⅰ-8-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

1校で、前年度と同じである。

[Ⅰ-8-1表]

（２）生徒数

・　18人（男子13人、女子5人）で、前年度より29人減少している。

・　課程別では、後期課程18人である。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は2.0人で、前年度より1.4人減少している。

[Ⅰ-8-1表・Ⅰ-8-2表]

[Ⅰ-8-2表] 　　　　　　 　課程別・学年別生徒数



（３）教員数（本務者）

9人（男性6人、女性3人）で、前年度より5人減少している。

[Ⅰ-8-1表]

９　特別支援学校

[Ⅰ-9-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　51校で、前年度より1校増加している。

・　設置者別では、国立1校（構成比2.0％）、公立50校（同98.0％）で、前年度より公立は1校増加している。

[Ⅰ-9-1表・統計表50]

（２）在学者数

・　10,218人（男子6,819人、女子3,399人）で、前年度より220人増加している。

・　設置者別では、国立58人(構成比0.6％)、公立10,160人（同99.4％）である。

・　部別では、幼稚部87人(構成比0.9％)、小学部3,206人(同31.4％)、中学部2,885人(同28.2％)、高等部4,040人(同39.5％)である。

・　１学級当たりの在学者数は4.2人で、前年度と同じである。

・　教員(本務者)１人当たりの在学者数は1.8人で、前年度と同じである。

[Ⅰ-9-1表・Ⅰ-9-2表・統計表51]

[Ⅰ-9-2表] 　　部別・男女別在学者数



（３）教員数（本務者）

・　5,565人（男性2,259人、女性3,306人）で、前年度より64人増加している。

・　設置者別では、国立29人(構成比0.5％)、公立5,536人（同99.5％）である。

[Ⅰ-9-1表・統計表53]

１０　専修学校

[Ⅰ-10-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　217校で、前年度より1校増加している。

・　設置者別では、国立1校(構成比0.5％)、公立1校(同0.5％)、私立215校(同99.1％)で、前年度より私立は1校増加している。

・　市町村別では、大阪市159校、堺市16校、豊中市・東大阪市5校の順に多く、73.3％が大阪市に集中している。

[Ⅰ-10-1表・統計表54]

（２）学科数

・　873学科で、前年度より9学科減少している。

・　設置者別では、国立1学科（構成比0.1％)、公立1学科（同0.1％)、私立871学科(同99.8％)で、前年度より私立は9学科減少している。　　　　　　　　　　　　　　　　　[統計表54]

（３）生徒数

・　65,387人（男子28,015人、女子37,372人）で、前年度より571人減少している。

・　設置者別では、国立23人(構成比0.0％)、公立64人(同0.1％)、私立65,300人(同99.9％）で、前年度より国立は7人、公立は20人、私立は544人、それぞれ減少している。

・　課程別では、高等課程4,333人(構成比6.6％)、専門課程60,909人(同93.2％)、一般課程145人(同0.2％)で、前年度より高等課程は163人増加、専門課程は658人、一般課程は76人、それぞれ減少している。

・　分野別では、文化・教養関係19,396人(構成比29.7％)、医療関係16,067人(同24.6％)、工業関係10,333人(同15.8％)の順に多い。文化・教養関係のうちではその他6,765人、医療関係のうちでは看護5,970人、工業関係のうちでは情報処理4,606人が、それぞれ最も多い。

・　１校当たりの生徒数は301.3人で、前年度より4.1人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は17.9人で、前年度より0.1人増加している。

[Ⅰ-10-1表・Ⅰ-10-3表・Ⅰ-10-4表・Ⅰ-10-1図・I-10-2図・統計表54・55]

[Ⅰ-10-2表]　 　類型別学校数



[Ⅰ-10-3表] 　　課程別生徒数



[Ⅰ-10-4表] 　　分野別生徒数



[Ⅰ-10-1図] 　分野別生徒数の推移

[Ⅰ-10-2図] 　　　　学科別生徒数の割合

（４）入学者数

・　令和6年４月１日から５月1日までの１か月間の入学者数は29,635人（男子12,703人、女子16,932人）で、前年度より944人増加している。

・　設置者別では、国立13人（構成比0.0％)、公立25人（同0.1％)、私立29,597人（同99.9％)である。

・　課程別では、高等課程1,663人(構成比5.6％)、専門課程27,827人(同93.9％)、一般課程145人(同0.5％)で、前年度より高等課程は86人、専門課程は911人、それぞれ増加、一般課程は53人減少している。

[Ⅰ-10-5表・統計表55・56]

[Ⅰ-10-5表]　　課程別入学者数



（５）卒業者数

・　令和5年４月１日から令和6年３月31日までの１年間の卒業者数は26,184人（男子11,148人、女子15,036人）で、前年度間より1879人減少している。

・　設置者別では、国立16人（構成比0.1％)、公立38人（同0.1％)、私立26,130人（同99.8％)である。

・　課程別では、高等課程1,312人(構成比5.0％)、専門課程24,695人(同94.3％)、一般課程177人(同0.7％)で、前年度間より高等課程は162人、専門課程は1,729人、それぞれ減少、一般課程は12人増加している。

・　卒業者のうち関係分野に就職した者は17,676人で、67.5％を占めている。また、課程別では、高等課程317人(同課程卒業者の24.2％)、専門課程17,359人(同70.3％)である。

[Ⅰ-10-6表・統計表55]

[Ⅰ-10-6表] 課程別卒業者数



（６）教員数（本務者）

・　3,645人（男性1,800人、女性1,845人）で、前年度より57人減少している。

・　設置者別では、国立3人(構成比0.1％)、公立8人(同0.2％)、私立3,634人(同99.7％)で、前年度より国立は１人、公立は2人、それぞれ増加、私立は60人減少している。

[Ⅰ-10-1表・統計表54]

１１　各種学校

[Ⅰ-11-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　29校で、前年度と同じである。

・　市町村別では、大阪市19校、東大阪市4校の順に多く、65.5％が大阪市に集中している。

[Ⅰ-11-1表・統計表57]

（２）課程数

59課程で、前年度より6課程増加している。

 [統計表57]

（３）生徒数

・　8,087人（男子4,773人、女子3,314人）で、前年度より507人減少している。

・　修業年限別では、1年未満の課程883人（構成比10.9％）、1年以上の課程7,204人（同89.1％)である。

・　分野別では、その他6,843人(構成比84.6％)、文化・教養関係872人(同10.8％)、医療関係139人(同1.7％）の順に多い。その他のうちでは、予備校3,621人、外国人学校2,315人、自動車操縦883人の順に多い。

 ・　１校当たりの生徒数は278.9人で、前年度より17.4人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は20.5人で、前年度より0.7人減少している。

[Ⅰ-11-1表・I-11-2表・I-11-3表・Ⅰ-11-1図・統計表58]

[Ⅰ-11-2表] 　　　　　分野別生徒数



[Ⅰ-11-1図] 　　分野別生徒数の推移



（４）入学者数

・　令和６年４月１日から５月1日までの１か月間の入学者数は5,033人（男子3,266人、女子1,767人）で、前年度より89人増加している。

・　課程別では、その他4,420人が最も多い。その中では予備校3,591人が最も多く、入学者数の71.3％を占めている。

[I-11-4表・統計表58]

|  |  |
| --- | --- |
| [Ⅰ-11-3表]修業年限別生徒数 | [Ⅰ-11-4表]生徒数、入学者数及び卒業者数 |

（５）卒業者数

・　令和5年４月１日から令和6年３月31日までの１年間の卒業者数は7,551人（男子4,646人、女子2,905人）で、前年度間より313人増加している。

・　課程別では、その他6,525人が最も多い。その中では予備校3,405人が最も多く、卒業者数の45.1％を占めている。

[統計表58]

（６）教員数（本務者）

394人（男性201人、女性193人）で、前年度より12人減少している。

[I-11-1表・統計表57]